

## 平成22年度実施 地域ICT利活用広域連携事業 成果報告書

実施団体名 特定非営利活動法人 桐生地域情報ネットワーク

代表団体名

事業名称 全国に散らばっている伝統文化のコンテンツをまとめるプラットフォームを提供する事業

## 1 事業実施概要

本事業では、各地に点在する伝統文化に係るコンテンツをまとめるためのプラットフォームを構築し、地域の子供たちの情操教育や生涯学習の教材として、また、旅行者などへ向けた観光情報としてこれらの情報が活用されることを意図している。

その結果、将来的には、地域の内外から、地域の伝統文化、伝統産業の継承を担う人材が生まれること、また、それらの情報に触れることによって得られるポイントなどを活用したまちづくりを目指す。

## 2 目標の進捗状況

### (1) 目標の進捗率

指標	目標値	結果の数値	達成状況	計測方法・出展等
活用する人材について	既存の地域メディアの従事者、学識者等 10名程度	10名	○	FM 桐生、FM OZE のスタッフで、コンテンツの提供者数をカウントした。
育成する人材について	目標数:年間 20～30名程度	35名	○	サイト登録時のデータ参照

### (2) 進捗率の理由（達成状況が△又は×の場合はその理由）

当初計画していた人材の育成はほぼ実現できたと考えている。しかし、当初は、地域のコンテンツの所有者が自ら発信する仕組みを目指し、「ICT を活用したコンテンツの制作者」（教材：コンテンツ登録編）、「ICT を活用したコンテンツの制作及び、登録者」（教材：コンテンツの登録編、コンテンツとは？）の2つの観点で事業計画を立てたが、コンテンツの登録者に特化した人材の育成の必要性を感じながら、そこまで実施できなかった。実際に、地域のコンテンツそのものを、ICT を活用して制作は行うが、制作のインセンティブと、それらを掲載するインセンティブは別のところにあるように感じた。つまり、自分で作ることはやるが、制作

者のインセンティブは、作ることそのものにある場合も多く、それらの発信という点においては、別の人材が必要であることがわかった。

一方で、自らが制作者となり、登録者になろうとする人材は当初予定していたよりも多く、今後コンテンツの充実が計れることが期待できる。

### 3 事業による成果

#### (1) 事業による成果（アウトプット指標）

項目	成果指数	備考（成果指数の説明等）	調査時期
サイト TOP へのユニーク総アクセス数	688	サイトのトップページへアクセスしたユニークユーザ数のカウント	2011/1/2-2011/3/30
サイトコンテンツページへの総アクセス数	6253	木と実のページへの総アクセスの合計のカウント	2011/1/2-2011/3/30
サイトへのユーザ総登録者数	52	アカウント ID の DB より抜粋	2011/1/2-2011/3/30
コンテンツジャンル（木）登録数	86	DB よりカウント	2011/1/2-2011/3/30
コンテンツ（実）登録数	604	DB よりカウント	2011/1/2-2011/3/30
ログイン済みユーザ閲覧数	1834	アカウント登録を行ったユーザによるサイトアクセス数	2011/1/2-2011/3/30
未ログインユーザアクセス数	4419	アカウント登録を行わずサイトにアクセスしたユーザ数	2011/1/2-2011/3/30
コンテンツお気に入り登録数	399	アカウント登録したユーザが木と実のコンテンツページをお気に入りに登録したカウント数	2011/1/2-2011/3/30
ICT を活用しているコンテンツ所有者を対象とした個別訪問数	10	普段から ICT を活用しているコンテンツ所有者の市民を対象として個別訪問したコンテンツ登録のためのサイト利用説明を行った人数	2011/3/30
講習会開催回数	14	桐生地域、沼田地域で開催したコンテンツ所有者を含む市民を対象として開催した講習会開催数	2011/3/2
講習内容の教材数	9	講習会で使用した教材（3つ）とその後制作したビデオ教材（6つ）の合計数	2011/3/30
コンテンツ所有者を含む市民を対象としたサイト利用講習会参加者数	35	桐生地域、沼田地域で開催した講習会の参加人数の合計	2011/2/6-3/2

講習会参加後のサイトへのユーザ登録者数	35	サイトのアカウント登録時のアンケート集計によってカウント	2011/2/6-3/2
---------------------	----	------------------------------	--------------

(2) 事業による社会的効果等（アウトカム指標）

項目	事業成果	調査内容	算出方法	調査時期
主観的認知度（伝統文化、産業）【単独指標】	向上	ラジオ番組や地元新聞での紹介によって、事業への問い合わせが3件、説明会への参加希望が4名あつた。	事業実施期間内にカウントした	2010/10 から 2011/3 まで
主観的満足度（教材、コンテンツ）【単独指標】	教材   5段階で4	コンテンツの内容は充実してきたが、コンテンツの登録数の伸びが予想より若干下回つた。コンテンツのクオリティについての発言が原因だと考える。	講習会を実施してからコンテンツの登録数の増加数、コンテンツ内容数の変化	2011/01 から 2011/3 まで
	コンテンツ   5段階で5	ユニークユーザ数が688で、実の閲覧数が3659あつた。平均して6ページのコンテンツを閲覧した事になる。 これまでの活動で開設したサイトではユーザ数の閲覧ページの平均が3ページ程度だったことを考えるとカウント数は倍になつた。	サイトのアクセス数におけるリピート率	2011/01 から 2011/3 まで

コンテンツ数	コンテンツのジャンル（木）=84 木について実（コンテンツ）=604	伝統文化の森のサイトの中に登録された木はコンテンツのジャンル、木について実（コンテンツ）そのものを意味する。	コンテンツ登録データベースよりカウント	2011/1/1 から 2011/3/30 まで
利用回数（伝統文化プラットフォーム閲覧）【単独指標】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ トップページユニークアクセス数=688</li> <li>・ トップページのページアクセス数=1169</li> <li>・ ログイン済みユーザーによる木の閲覧数=819</li> <li>・ ログイン済みユーザーによる実の閲覧数=1015</li> <li>・ 未ログインユーザーによる木の閲覧数=1775</li> <li>・ 未ログインユーザーによる実の閲覧数=2644</li> </ul>	アカウント登録ユーザーが 52 であることから総閲覧者数の 1/13 しか登録していないことがわかった。潜在的に伝統文化に関するコンテンツに興味を持つ人の多さを知る結果となった。その方々をくみ上げてサイト利用へと結びつけることでより多くのユーザー、コンテンツを生み出す可能性を持っていると感じている。	アクセスログ集積	2011/1/1 から 2011/3/30 まで
ICT 人材の増加【単独指標】 (育成:20~30 名、活用:10 名)	活用   10 名	数字としての目標は達成できた。しかし、コンテンツ所有者の本音は自身でコンテンツを登録するよりも誰かにその作業を任せたいという思いが強い。登録や活用を促す労力を考えるとその活動に楽しみを見いだす市民の中から人材	個別訪問、及び、説明会参加者数による	2011/2/6 から 2011/3/2 まで

		を囲い込む体制を検討していくべきであると感じた。		
	育成   35名	<p>活ユーザー数同様に、数字としての目標は達成できた。</p> <p>次年度以降の改良点としては、「コンテンツ提供者・登録者」＝協力者という位置づけでは当団体が依頼主／依頼者という見え方になるところを、学びの場の提供者として当団体や活動を位置づけた情報発信を行うことの必要性を強く感じた。そうすることで、より積極的なボランティアの市民を集めることができると考える。</p>		

#### 4 システム設計書

別添2のとおり。

## <システム運用結果>

### 1 システム運用で得られた成果

サイトアクセスログによって、ユニークユーザによる総アクセス数 688 に対して、アカウント登録ユーザの 52 であることから、それ以外の閲覧者のユニーク数が 636 であることがわかった。カウント期間はサイトオープン後の 2011 年 1 月～3 月の 3 か月間であるため、平均するとひと月に 120 のユーザが見ている計算になる。これは、潜在的に伝統文化に関するコンテンツに興味を持つ人の多さを知る結果となった。

サイトをオープンする前には、実際に地域の伝統・文化に関心のある市民の数の把握は困難であった。その結果、どのような情報発信を行うべきか、手探りに近いものがあったが、600 人以上の人数が興味／関心を示していたことがわかったことにより、次年度以降の活動の情報発信の方法がより具体的にプランニングできるだろう。桐生地域、沼田地域の人口比率から考えると 2:1 程度なので、桐生地域で 400 人、沼田地域で 200 人程度と予想できる。地域内の人口の約 0.5%程度が地域の伝統や文化に関心を寄せている。人年度は、活動そのもののさらなる情報発信によって、この割合を増やす事、また、この現段階で興味を示したユーザをプロジェクトの協力者として受け入れられる体制作りの 2 つが具体的な目標として導きだせた事は大きいと感じている。

### 2 平成 22 年度事業実施において明らかとなった課題

地域コンテンツの利用を検討する段階で、2 つの大きな課題が見つかった。1 つは、地域の図書館に「地域資料目録」が存在しなかったために地域コンテンツの把握に時間を要したこと、もう 1 つは、地域のコンテンツをデジタル化する段階での課題である。

#### 1 地域資料目録について

書籍等は元々の図書分類に乗っ取った分類はされているものの、それらの書籍を「地域資料」という棚に並べているだけという実情であった。結果、館内での検索等でも十分に把握することはできず、また、一般書架に並んでいるものと倉庫内の書架に並んでいるものがあるなど、地域の文化・歴史に関する書籍の把握は困難を極めた。

調査は、まずは一般書架に並んでいる書籍を中心に分類、さらに、館内の検索端末によるキーワード検索によって、蔵書のリスト化を試みた。検索端末自体も該当数が多すぎる場合は、絞り込み検索を促し、表示をさせない仕様になっているため、非常に手間の掛かる作業となる。

具体的に調べるものがわかっている場合を除いて、地域の情報へのアクセスの容易性を高める必要があると考える。図書館にて、政治、経済、芸術などの一般教養を得る際は、テレビやインターネット等で、事前に手に入れた予備知識があることが多い。しかし、地域のコンテンツについては、見聞きしたものが予備知識であったり、インターネット等でもあまり紹介されていないことも多いため、予備知識がない状態で書架の前に立つ事も考えられる。その場合、どこからなにを参照すれば良いかの手がかりが見つからないことも多いだろう。図書館の検索システムを活かしながら、より地域のコンテンツにアプローチしやすい環境をどのように形成していくかは今後も検討が必要である。

#### 2 地域コンテンツのデジタル化について

調査の結果、実に多くの地域コンテンツがあることはわかったが、いざこれらをデジタル化する、となった場合、著作権の扱いと公開に関してクリアできずにその多くは今年度のデジタル化を見送っている。

桐生市が所有する地域コンテンツの多くは、教育委員会 | 文化財保護課が所有している。担当課長から

は、事業の報告性や取組についての賛同は得られたものの、コンテンツをデジタル化して、公開していくことに関しては、著作権の問題をクリアするところまで至らず、「今後も引き続き検討したい」として最終的な結論は出なかった。また、沼田市の場合は、社会教育課の中に、文化財保護係があり「桐生市の動向が一つの参考になる」という意見を頂戴した。

著作権において課題は以下の通りである。

- ・書籍を発刊する目的で執筆を依頼した郷土史家の方々に了承を得られるのか
- ・その対象をどこまで広げるのか。
- ・仮に、許可をもらうにしても各書籍毎に執筆者へ連絡を取ることが現実的に可能か。
- ・どこの組織がその確認を行うべきか。
- ・執筆者が亡くなっているケースも多く、問い合わせ自体に対応できない可能性もある。

公開に関しての課題は以下の通りである。

- ・公開内容についての問い合わせ等を想定すると関係各所への事前通達が必要。
- ・二次利用を防ぐ仕組みを入れられるか。

以上のような可能性を想定した検討を行ったが、現段階では結論に至っていない。しかし、今後も検討を続けて行くことについて合意しているので、上記の問題を一つ一つ議論しながらガイドライン策定を進めて行きたい。

また、全国には図書館が地域コンテンツのデジタル化を担っている例も少ない。しかしながら、記念行事等、なにかしらの理由で予算化された場合に実施されており、継続的に活動を行く為には予算化して図書館で行う、というのは現実的ではない。

そこで、次年度以降は、「地域コンテンツデジタル化研究会（仮称）」を発足させて、行政、市民から提供されたコンテンツをデジタル化していくための人材育成を実施して行く予定である。また、これらの活動について賛同頂ける企業等を募り、その財源を元に、デジタル化にあたった人材への手当としていくなどの仕組み作りを実施したい。

さらには、これらの取組のソリューションを一般化していくために必要と考えるポイントを以下に示す。

- ・ユーザー登録者数の絶対数を増やすために特に説明会をベースとした取り組みを根気強く続けていく。
- ・コンテンツの生成や閲覧によって貯まる「知識ポイント」を活用してわかりやすいユーザーメリットを提示していく（後述）
- ・「コンテンツの提供者」と「コンテンツの登録者」とのマッチングための体制、インセンティブ作り。

次年度は、早い段階で「地域コンテンツデジタル化研究会（仮称）」を発足させて、定期的な勉強会の開催を目指していきたい。

### 3 自律的・継続的運営の見込み

大きくわけて2つのポイントについてまとめる。

1つは、「実施体制」、もう1つは「活動資金」についてである。

#### 1 実施体制について

当NPOが中心となり、継続して地域コンテンツのデジタル化、及び、伝統文化の森へのコンテンツ登録を行っていく予定である。

具体的に必要なのは、コンテンツ収集、デジタル化、登録作業を行うスタッフ、さらには、システム運

営保守、及び、管理などである。まず人材面についてだが、今年度の活動では、地域コンテンツのデジタル化をコンテンツ所有者自らが行うことを想定した活動を実施してきたが、考え方を改め、コンテンツ所有者＝コンテンツ登録者とはせず、コンテンツ所有者とコンテンツ登録者を当団体が繋ぐための組織作りを次年度に実施する。

地域コンテンツデジタル化研究会（仮称）とし、地域のパソコン教室等に通う市民に協力を募り、行政や市民から提供される地域コンテンツのデジタル化やサイト登録作業を行ってもらおう仕組みを作る。地域の子供たちの情操教育を目的とした団体として、市民団体登録も視野に入れておきたい。

## 2 活動資金について

本年度は、活動内容の告知や紹介について、地域のラジオ等を活用したことによって地域の市民や企業などに広く知ってもらうことができた。次年度は、活動を継続しながら、伝統文化の森の取組について、サポーターを募集していく。サポート方法には、活動資金の援助、市民ボランティアに対するサービス、様々な現物支給など、いくつか用意をしておく。特に活動資金については、事業終了後に本格的に広く求めていく予定だ。

また、当団体は、地域の地場産業を元に、新たな地域産業ブランドの設立を検討している。この活動は、地域のコンテンツとして紹介していくことだけでなく、自らがその活動に入り、コミュニティビジネスを創出することで、「地域の産業、文化を継承する」ための資金調達を目指す。

当 NPO はこれまで、平成 14 年から 3 年間実施した長寿社会開発センターの委託事業「新あすへの遺産」の活動を通して、桐生地域で和装織物が最盛期だった頃に生まれた「お召」という織物に使われている強い撚り糸を作る会社や、また、ウェブ連携モデルの基礎となったブローカレス理論に乗っ取ったアプリケーションの開発を行うベンチャー企業などを桐生地域で創出した経験がある。

本事業でも、伝統産業の発展に寄与することを目的とした地域産業ブランドを創出することで、本事業の活動資金を生み出すコミュニティビジネスの創出を目指している。

## 4 今後の展開方針

次年度には、先に記述した 2 つの内容を視野に入れて、以下のように活動を実施していく予定である。

- ・ 伝統文化の森の活動紹介や各種募集するためのラジオ番組の制作

「地域の文化歴史産業に関するコンテンツの収集」「地域コンテンツのデジタル化作業」「地域コンテンツの登録作業」について、地域のメディア（コミュニティ FM、新聞等）を用いて広く協力者を募っていく。

- ・ 地域コンテンツデジタル化研究会（仮称）の発足

今年度懸案だったコンテンツのデジタル化についてのガイドラインの作成、作業ボランティアの窓口、地域コンテンツに関する勉強会などの開催（行政との連携で実施）。参加特典（インセンティブの設計）の検討と実施を行う。

- ・ スポンサーの獲得

地域の企業、商店などに対しては、伝統文化の森の活動サポーターとして登録してもらうよう協力を呼びかけていく。協力企業は、本取組を紹介するラジオ番組等でそれらの企業の紹介を行っていく。市民は、この取組に賛同し、参加／協力することで、前述した作業について、数万円のアルバイトになるほか、地域の商店などの活動の賛同店にてサービスが得られるようになる。

- ・ コミュニティビジネスの準備（活動資金の調達に向けて）

伝統文化の森の活動の紹介の1つとして、地域産業ブランドの設立を目指していく。そこで開発された商品の販売は、相乗効果を狙い、伝統文化の森〜Foresta〜やラジオ番組と連携させて実施していく。

今年度に生まれた種（地域コンテンツ、伝統文化の森〜Foresta〜、地域の人材／企業）を、コミュニティビジネスという観点で結びながら、活動を集約させていくことで、事業終了後に継続して活動が行える環境を構築していく。

## 5 その他

メディア掲載について

2010年12月29日 桐生タイムス



発行所 桐生タイムス社  
桐生市東四丁目5-21 電話0277-46-2511(代)  
〒376-8528 郵便振替00310-5-12247

購読料 1部 80円  
1か月 1,950円  
お申し込みは  
0120-89-4946

●編集直通 電話46-2001 電46-2545  
●広告 電話46-2511 電46-2540  
●タイムス案内 電話46-2536  
●折り込みチラシのお申し込み  
電話46-2211 電46-3838

# 桐生タイムス

2010年(平成22年) 12月29日 水曜日 第17373号

## 伝統文化の情報掘り起こせ 情報ネットがサイト「伝統文化の森」



### FM桐生やFM尾瀬と連動 協力者を公募、来月説明会

NPO法人桐生地域情報集約を目的としたサ  
報ネットワーク(塩崎泰 イト「伝統文化の森」を  
雄理事長)は31日、地域 インターネット上に立ち  
に根付く伝統文化などの 上げる。市民が誰でも見

郷土のリズムで走者を 若い担い手たちの演奏機 回の試み。  
励ますとともに、ふるさ 会を増やそうと、有志た 上州八木節に造詣の深  
との芸能を全国に伝え、 ちが準備を進めてきた今 い新井和夫さん、亀津正

夫さん、春山雅子さん、 50号の松原橋交差点付近  
田口幸男さんら、実行委 にあるうなぎの浜松屋  
員たちは八木節団体に協 を皮切りに、境野公民館

桐生市国際交流協会は  
英会話中級講座を1月25  
日午後7時から、市立南  
公園で開講する。3月22  
9回。  
講師は米国出身のハロ  
ルド・スチュワートさ  
ん。対象は18歳以上で、  
桐生に住んでいる人が協  
会員。募集人数20人(先  
着順)、受講料は一般が  
6500円、協会員は4  
500円。

サイトを立ち上げは総 務省からの受託事業とし  
て行うもの。「伝統文化  
の森」は分野ごとに内容  
をくめ、興味のある項  
目に関連した文章や画  
像、映像を見られる仕組  
み。ネット上に散在する  
情報を分かりやすく参照  
できるリンク集としての  
役目も果たす。将来的に  
は閲覧回数に応じてポイ  
ントを発行し、特典を付  
与する仕組みも取り入れ  
るという。  
県内でも高齢化率の高  
い桐生、沼田両市でコミ  
ュニティーFMと連動。  
両局で10月から放送を始  
め、受け継いでいけるよ  
うにするのが狙い。FM  
桐生や沼田市のFM尾瀬  
で放送する番組と連動  
し、情報の掘り起こしも  
進めている。内容充実  
に向け、協力者を募って  
いる。

総務省からの受託  
3月末まで継続する。こ  
れまでの取り組みで「桐  
生で活躍した沼田市出身  
の医師」などの発掘につ  
ながっている。  
事務局の小保方貴之さ  
んは「地域の伝統文化に  
触れる環境がないと残っ  
ていかない。「あつたこ  
とを知らない」状態をな  
くすため、いつでも見ら  
れる環境をまずつくりた  
い。観光客も地域を深く

入居ご希望の方は  
お問い合わせください  
空き室あり  
医療法人 日蓮会  
グループホーム (ほの花)  
サンホームグループ (ほの花)  
みどり市笠懸町阿左美499番地1  
☎0277-30-8122



▶ ニュース一覧へ

NPO法人桐生地域情報ネットワーク（塩崎泰雄理事長）は31日、地域に根付く伝統文化などの情報集約を目的としたサイト「伝統文化の森」をインターネット上に立ち上げる。市民が誰でも見られる状態にすることで郷土の文化の存在を知り、受け継いでいけるようにするのが狙い。FM桐生や沼田市のFM尾瀬で放送する番組と連動し、情報の掘り起こしも進めている。内容充実に向け、協力者を募っている。

総務省からの受託

サイトの立ち上げは総務省からの受託事業として行うもの。「伝統文化の森」は分野ごとに内容をくくり、興味のある項目に関連した文章や画像、映像を見られる仕組み。ネット上に散在する情報を分かりやすく参照できるリンク集としての役目も果たす。将来的には閲覧回数に応じてポイントを発行し、特典を付与する仕組みも取り入れるという。

県内でも高齢化率の高い桐生、沼田両市でコミュニティFMと連動。両局で10月から放送を始めたサイト名と同名の番組「伝統文化の森」で両地域の風習や場所、人物、歴史、伝統、民話について取材し、取り上げた内容をサイトに落とし込んでいる。放送は来年3月末まで継続する。これまでの取り組みで「桐生で活躍した沼田市出身の医師」などの発掘につながっている。

事務局の小保方貴之さんは「地域の伝統文化に触れる環境がないと残っていかない。「あったことを知らない」状態をなくすため、いつでも見られる環境をまずつくりたい。観光客も地域を深く知りたがる傾向で、その点でも有益。情報の蓄積を速じ、人の流れや動きに変化を起こしたい」と話している。

NPOではより内容を充実させるため、協力者を公募し、来年1月中旬に説明会を予定している。問い合わせは事務局（電0277・20・7800、電子メールsupport@denbunmori.jp）まで。「伝統文化の森」のアドレスはhttp://denbunmori.jp。

アーカイブ [2010](#) | [2011](#)

HOME  
NEWS

- ▶ ニュース一覧 (2011年)
- > 2月1日-15日
- > 1月17日-31日
- > 1月4日-15日
- ▶ ニュース一覧 (2010年)
- > 12月16日-30日
- > 12月1日-15日
- > 11月16日-30日
- > 11月1日-15日
- > 10月16日-30日
- > 10月1日-15日
- > 9月16日-30日
- > 9月1日-15日
- > 8月16日-31日
- > 8月2日-14日

COLUMN

▶ そうき林・論説

INFORMATION

- ▶ 桐生タイムス社から
- ▶ 企業情報

なひとときを楽しんだ。

## 求む、執筆者

「伝統文化の森」充実へ

桐生地域情報  
ネットワーク

NPO法人の桐生地域



情報ネットワーク（塩崎泰雄理事長）は、地域の伝統文化の情報集約を目的にインターネット上に開設したサイト「伝統文化の森」の内容を充実させるため、執筆者を募っている。3月初めまでパソコンの操作方法などの講座を開いている。

サイトは昨年末に設



協力者を対象にした講座を開いている

置。FM桐生の番組とも連動し、地域の幅広い情報を集めている最中。講座は情報や写真、映像などを有している協力者を対象に、桐生市錦町のパソコン教室を会場にマンツーマン形式で掲載方法などを相談しながら行っている。

講座は25日と3月2日にも実施予定。時間は両日とも午後3時半からと同5時半からの2回。NPO法人では「特に自然や野球、食文化などの情報がほしい。一緒に取り組んでいただけたら」と呼び掛けている。

### つかさ画廊で

### 入澤徹さん個展

あすから

みどりの市笠懸町在住の

入澤徹さんの個展が25日から27日まで、桐生市新宿二丁目のつかさ画廊（電44・8577）で開かれる。午前10時～午後6時半。

入澤さんは伊勢崎市出

身で、現在、県立渡良瀬養護学校に勤務。太田美術協会に所属し、版画を中心に創作に取り組んでいる。

同画廊で12年ぶりとなる個展では多色刷りの木版画と水彩画の作品約20点を展示。風を表現した抽象作品に加え、駅を描いたモノクロの版画作品も出品される。

## <人材育成状況説明書>

### ①申請主体におけるICT人材の育成・活用内容

#### 1 ICT人材の育成人数

既存の地域メディアの従事者、学識者、市民等 45名

#### 2 ICT人材の育成方法

方法は2つある。両方ともに対象者は「地域コンテンツの所有者」

1つは、地域コンテンツ所有者を個別訪問する方法で、地域コンテンツの内容をヒアリングしながら、伝統文化の森〜Foresta〜にてどのようにまとめるかを提案した。

もう1つは、地域コンテンツの所有者に対して、サイト利用の講習会／説明会という名目で呼びかけて講習会を実施した。

#### 3 1で育成等したICT人材の活用人数

既存の地域メディアの従事者、学識者、市民等 35名

#### 4 ICT人材の活用方法

前述した講習会／説明会にて、事業の説明、コンテンツのまとめ方、サイトの利用方法などを作成した教材を用いて説明し、数回にわたって共に登録作業をサポートした。

#### 5 次年度以降のICT人材の育成・活用内容（予定）

今回の事業では、地域コンテンツ所有者を主な対象として活動を実施した。これは、地域コンテンツの所有者がICTを使ってコンテンツのまとめを行っているからであった。しかし、地域コンテンツの所有者には、「他の人に見てもらいたい」という想いはあっても「そのために時間を費やしたく無い」という想いも共存していることが多い。多くの方が、サイトの利用方法を覚えるより、その時間をコンテンツの研究に時間を使いたいという考えを示した。

また、一方で閲覧登録のみを行うユーザや、講習会／説明会に参加した方でも、地域コンテンツそのものに興味を示す方も何名かいた。それらを踏まえて、次年度の活動を以下に示す。

- ・コンテンツ提供者とコンテンツ登録作業者のマッチングを計る組織の設立
- ・地域メディアを用いて提供者と登録者の参加呼びかけ
- ・提供者と登録者をチーム制にしてサイト登録で溜まる「知識ポイント」で競争を行う
- ・知識ポイントの現実社会での活用（例 | 商店街などで使えるようにする。現段階では、桐生麺類商組合の有志数店が協力に同意している。具体的な割引方法、割引率については、現在調整中）

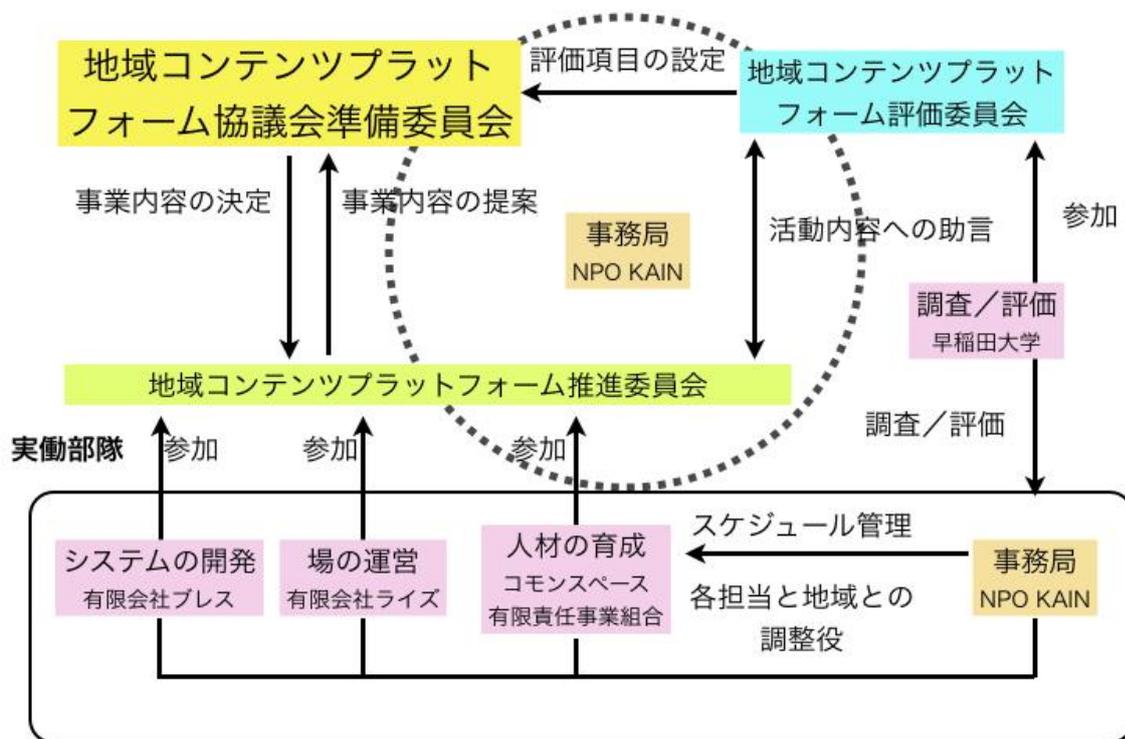
②事業運営主体におけるICT人材の育成・活用内容

- 1 ICT人材の育成人数
- 2 ICT人材の育成方法
- 3 1で育成等したICT人材の活用人数
- 4 ICT人材の活用方法
- 5 次年度以降のICT人材の育成・活用内容（予定）

<実施体制説明書>

1 実施体制

# 実施体制



2 各主体の役割

No	名称	役割
1	地域コンテンツプラットフォームフォーム協議会準備委員会	事業内容の決定、諮問組織
2	地域コンテンツプラットフォームフォーム推進委員会	活動内容の提案、関係各所との調整役
3	地域コンテンツプラットフォームフォーム評価委員会	事業内容の評価、活動内容の精査
4	有限会社プレス	地域コンテンツプラットフォームフォームの構築/開発/保守
5	有限会社ライズ	場の運営、ネットを使った活動内容に周知、広報のためのラジオ番組の制作
6	コモンスペース有限責任事業組合	プロジェクトの協力者発掘、サイト利用者の人材育成
7	早稲大学中里研究室	利用者へのアンケート調査

事業実施進行表

実施内容	8月	9月	10月	11月	12月 (予定)	H23 1月 (予定)	2月 (予定)	3月 (予定)
	協議会開催			△				△
調査/ 実行委員会開催			△		△	△	△	△△
実施内容の確定	→							

プラットフォーム設計									
プラットフォーム開発									
場の運用・保守									
人材育成									
人材活用									
教材開発									



